



校長室だより

令和4年度
10月31日
NO. 6

オール素梨で創り上げたステージ！

本校が重点的に取り組む行事の一つとして、学芸会があげられます。感染対策をした上で今年は3年ぶりに来賓や祖父母の方々もお迎えしての開催となり、子供たちが輝く姿を多くの方々にご覧いただきました。多くの来賓の方々からは、子供たちと教職員の頑張りにお褒めの言葉をいただき、うれしく思っています。

私が本校に赴任してから3度目の学芸会でした。一昨年、昨年と同様、今年もレベルの高い学芸会だったと誇らしく思っています。

学芸会の準備は約3週間前から始まりました。各学年の劇に加え全校音楽と盛りだくさんではありましたが、各教科の授業時間も確保しながら、限られた時間内で濃密な練習をしてくれました。休み時間には、いつもリコーダーやピアノの音が聞こえていました。子供たちの自主的な取組だったようです。やらされているのではなく、自ら考え進んで練習に取り組んでいたことに大きな価値を感じました。

どんなに準備をしても、すべて予定通りというわけにはいきません。今回の学芸会でもいくつかのところでハプニングがありました。でも、子供たちがそれぞれのハプニングに適切に対処してくれました。ほとんどの方はそれに気づかなかつたのではないのでしょうか。予定外のハプニングをみんなでカバーできていました。そこが素晴らしい。状況をとっさに判断して対応する子供たちに感心しました。仲間を助け、みんなで劇を成功させたいという思いに胸が熱くなります。

そして、最後の全校音楽。木河先生を中心に子供たちと教職員が心をついに全員で創り上げたステージの感動は、ご覧いただいた多くの方々の心に届いたのではないのでしょうか。私の心も震えました。手前味噌で恐縮ですが、見事でした。

今年も、学芸会を通して成長する子供たちの数々の姿を見ることができました。保護者や地域の方々に見守られながら、これからも素梨教育の充実に努めていきます。



みんなで楽しめた「ふれあいの会」

27日(木)の午後から、長明クラブの方々(29名ご参加)のご協力により、3年ぶりに「ふれあいの会」を開催することができました。子供たちは、5つのグループ(「竹馬」「グランドゴルフ」「生け花」「紙飛行機」「お手玉」)に分かれ、地域のおじい様やおばあ様から教えていただきながら、楽しい時間を過ごすことができました。地域の方々の子供を見守る優しい眼差し、子供たちの生き生きした笑顔が見られました。長明クラブにはいい会にさせていただけたと感謝しています。

これまでは2月に「ひな祭り会」として開催していましたが、来年度以降も気候のいいこの時期に開催したいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



28日(金)には、授業参観が行われ、多く保護者の方々にご参観いただきました。この日は、信州大学の三崎隆教授をお招きしての校内授業研究会も兼ねていました。本校が研究している『学び合い』の授業の実際を保護者の方々にもご覧いただきご理解いただきたいと思い、同時開催とすることにしました。当日は、岡崎市教育委員会の指導主事や下山小学校、宮崎小学校、生平小学校の校長先生や教務主任、研究主任の先生方も参観に来られ、一緒に研修することができました。

市教委の主事や各校の先生方は、子供たち全員が学習に向き合う姿に驚き感心されていきました。授業の中で「わからない」と友達に素直に聞ける子の素晴らしさ。「わかるように」に苦心しながら説明する子の粘り強さ。これらは、いずれも確かな学びを生み出すために必要なことです。授業のそこかしこで、そうした子供たちの姿が見られていました。「一人も見捨てない」という本校の理念が、一人一人の子供たちに着実に根付いてくれてきていることを感じ嬉しく思いました。

今年度は、従来の『学び合い』に加えて、異学年合同『学び合い』の授業について力を入れてきましたが、三崎先生からはいずれも素晴らしいと褒められました。



昨年度は、オンラインで授業を見ていただきましたが、今年は、子供たちが学習する様子を直にご覧いただき、「間違いなく日本一の『学び合い』です。」と評価していただきました。インターネットで「信濃の国からこんにちは」(10/29)を検索していただければ、秦梨小の評価について、三崎先生のコメントがご覧いただけます。ぜひ、ご覧いただければ幸いです。